

農 林 委 員 会 委 員 協 議 会 記 録

1 会議の日時	令和4年1月27日	開 会 午後 12 時 59 分 閉 会 午後 1 時 38 分
2 会議の場所	議会東棟 企画経済委員会室	
3 出席者	委 員	委員長 若井敦子 副委員長 安井 忠 玉田和浩 藤 墳 守 渡辺嘉山 川上哲也 (小原 尚) ()は欠席委員
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	課長補佐 久富英材 主任 山辺有紗	課長補佐 大野享子

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 農林業分野でのデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進について	

6 議事録（要点筆記）

○若井敦子委員長

それでは、ただいまから農林委員会委員協議会を開会する。

小原委員から欠席の連絡があった旨、ご報告する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るために開催したものであり、「農業分野でのデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進について」を議題とし、執行部の説明を求める。

（執行部挨拶：長尾農政部長）

（執行部説明：田口農政課長）

（執行部説明：平野林政課長）

○若井敦子委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○川上哲也委員

災害発生時の対応において、DXはどのように活用できるのか。

○藤下100年の森づくり推進室長

例えば林道等が被災した際には、現場で位置情報付きの写真を撮影し、森林クラウドへ登録することで、関係者間で情報を共有することができる。

○下里農地防災対策室長

農地・農業用施設の災害発生時の初期対応として、被災箇所を特定する必要があるが、GPS付きカメラ、地理情報システムを活用することで、迅速な処理が可能となるのではないかと考えている。

○平井林政部次長

治山事業については、地形データを森林クラウドへ搭載する予定であり、それにより土砂の流出量を迅速に把握することができるので、その後の復旧工事に役立つ。

○川上哲也委員

土砂の流出等の変化は、現地でドローンを飛ばして把握するのか、それともカメラで撮影するのか。

○平井林政部次長

局所的にコンサルタントにドローンを飛ばしてもらい、被災前の地形データとの差分を解析することで、土砂の流出量を算出する。

○藤壇 守委員

現在、農政部と林政部でドローンを何台保有しているのか。

○田中森林整備課長

林政部では全農林事務所、森林文化アカデミー、森林研究所に配備されているので、12台は保有している。

○後藤スマート農業推進室長

例えば、スマート農業推進室では、センシングドローンを本年度1台導入した。

○藤壇 守委員

それほど多くは所有していないようだが、ドローンを活用した施策が行えるのか。

○長尾農政部長

ドローンを活用するには操作技術が必要であることや、目的に応じて何種類も所有することは非効率

であることなどから、業者委託などによりドローンを活用するのが一般的である。特定の目的のために県で所有しているものもあるが、業者委託なども組み合わせながら、ドローンを活用した施策を展開することになるのではないかと考えている。

○川上哲也委員

林業従事者が減少している中で業務の効率化を行う必要があると思うが、関係団体からDXに対して期待する声はあるか。

○高井林政部長

ドローン等のICT機器を導入することで生産性や安全性が向上し、森林技術者の所得向上につながるということで、関係団体からも機器を導入したいという声は聞いている。

○平井林政部次長

林業事業体より、農林系の高校等へ勧誘に行った際、生徒はデジタルレーザー計測機器に目を輝かせていて、若い人材を獲得するにはデジタル機器は必須と感じたと聞いている。

○川上哲也委員

よくわかった。

○藤墳 守委員

岐阜県の山林は急峻な箇所が多いが、どのように対応するのか。

○吉峯林業経営改革室長

リモコン草刈機や高所無人掘削機など、斜面でも無人で作業できる技術が開発されており、森林文化アカデミーで導入に向けた検討を行っている。これらの機械により斜面での作業も効率よく行うことができる。

○藤墳 守委員

地上3Dデジタルスキャナーの導入によって何が変わるのか。

○吉峯林業経営改革室長

森林資源量等の調査について、従来は作業員が一本一本調査を行っており、1日で1ヘクタールを調査するのに約6人を必要としたが、地上3Dデジタルスキャナーを導入することにより、機器で測定しながら山を歩くという作業に変わり、3分の1の人数で同じ調査ができるようになる。また、地形や樹高等といった情報も一度に測定でき、調査の効率化が図れる。

○藤墳 守委員

林業は給料が安いうえに危険を伴うが、若い人が参入してくるのか。

○平井林政部次長

林業は効率化できる作業が多く残っている。スマート林業等を推進することで、従来の約3倍の効率化が見込める作業もある。中小の事業体が多いためデジタル機器の導入が難しいという課題はあるが、大きい事業体は積極的に導入しつつある。デジタル機器の導入が当たり前になれば、業界全体の底上げになり所得向上にもつながると期待している。

○若井敦子委員長

他に質問はないか。

(「なし」の声あり)

○若井敦子委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって「農林業分野でのデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進について」の説明聴取を終了する。

他に意見等はないか。また、執行部はいかがか。

(発言する者なし)

○若井敦子委員長

ご意見もないようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

農林委員会配席図

石垣 農政課 農業研究企画監		後藤 農政課 スマート農業 推進室長		辻 里川振興課長		若山 農地整備課長		下里 農地整備課 農地防災対策 室長
吉峯 森林整備課 林業経営改革室 長		横山 家畜伝染病 対策課長		長屋 畜産振興課長		高井 家畜防対策 課長		板垣 農村振興課長兼 鳥獣害対策室長
	藤下 林政課 100年の森つ くり推進室長		井戸 農業経営課長		高木 農産物流通 課長		大橋 農産園芸課長	
	田中 森林整備課長		伊藤 県産材流通課 長		田口 農政課長		勝野 検査監督課長	
	平野 林政課長		足立 農政部次長		雨宮 農政部次長		深谷 農業技部 監	
	平井 林政部次長		高井 林政部長		長尾 農政部長		杉下 農政部次長	

入口側

川上 委員
藤埴 委員

○
○

○
○
○

小原 委員
渡辺 委員
玉田 委員

○

○

安井副委員長

若井委員長